

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 A棟		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JijyosvCd=3370105623-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が自然に囲まれ緑豊かな環境の中、近隣には小学校や公民館・近水園(庭園)が立地しています。当苑は、地域の文化祭に参加したり、畑で育てた野菜を収穫するなど地域や自然とのふれあいを大切にしながら、家庭的な環境の中で利用者様の残存能力を生かし出来ることは出来る限り自分でして頂けるよう自立支援に向けた取り組みに力を入れています。一人ひとり利用者様が、ご家族の意向に沿った生活の実現を目指し個別性のあるケアの実践に努め、その人らしいサービスが提供できるよう取り組んでいる。また、医療面では、母体施設が医療法人でもあり、先生と連携し、緊急時においても早期対応が出来る体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山市足守地区の地域資源に恵まれたところに事業所は位置している。地域との交流は盛んで、文化祭に作品を出展し、近水園付近では祭りが多く取り行なわれ、入居者は露店で買い物しながら馴染みの習慣を楽しんでいる。入居者の得意な分野だった絵を描く事や喫煙をしたいなどの希望を要望と捉え、生活の中に取り入れることにより、その人らしく暮らせる様支援している。終末期の介護を積極的に受け入れ、看取りのマニュアルを用意して、終の棲家としての支援をしている。各棟の管理者から「入居者を入居者の目線で支援していきたい。柔軟な姿勢で対応を考えながら支援し、入居者に自分の家にいるような感覚をもってもらい、頼りになれる管理者を目指している…」と今後の抱負を語ってもらえた。期待したい事柄である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と本年度の目標についてスタッフ間で共通認識の下、統一したケアができるよう努めている。定期的にカンファレンスを行い確認の場を設けている。	新人研修にて理念の認識を図ると共に、理念と年度目標(外出して気分転換を図る)の確認をしつつ、認識を深めて実践に繋げている。その人らしい生活を日頃のケアに活かし実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけている。また、地域の文化祭や催し物に利用者さんの作品を出品したりし、交流ができる場を作っている。	地域の文化祭などに入居者の作品を出展したり、ホームの夏祭りに地域の方を招き交流したりしている。近隣へ散歩に出かけ、挨拶をしている。地域の溝清掃奉仕に参加したり、部屋を会合の際に提供したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩しお話を交したりすることで、その方の事を理解して下さり気軽に声もかけてくれる。また、運営推進会議で現在の利用者さんの状況や取り組みを説明し理解してもらえよう意見交換の場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催し事業所の報告を行うと共に皆さんから御意見、要望を伺い法人とも話し合い改善に努めている。	定例で運営推進会議を開催し、行政、家族代表、各管理者を交え話し合いを行っている。ドライブ、行事など日々の活動状況、災害意識についての話し合い、食中毒など感染症に関する勉強会を開いて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの方に参加して頂き、取り組みなど報告しています。また、必要に応じて、分からない事や問題の事があれば相談をしている。	運営推進会議に出席してくれ、事業所の運営状況や各種活動報告を伝え、行政からは制度改正などの伝達を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に事業所の基本的考えを伝え、御家族に伝えている。また、スタッフ間でも定期的に話し合い正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフとは事例をもとに話し合いの機会を設け、行動の分析をしてケアの方針を決め、共有して実践に繋げている。喫煙などの要求は本人の納得する仕方に対応し、穏やかに暮らせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての定期的に会議を行い自分達の行為について問題はないか意見交換の場を作り、話し合いを行い再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要性のある利用者様はいないが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち理解を深め、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全て丁寧に説明を行い、質問があれば丁寧に答えている。改定があれば御家族、利用者さんには文章で詳しく説明を行い納得の上で同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や希望があればスタッフ間で共有し早期に出来ることであればすぐに対応できるように取り組んでいる。面会時や電話でも報告し、要望も伺い運営に反映できるように取り組んでいる。	入居契約時に運営に関する説明をして意見を聞いている。意見箱を設置し、面会時に活動の様子などを報告し、意見を聞く機会を設けている。ミニ新聞を発行し、活動の様子を見てもらい、取り組みの理解を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは管理者を交え職員間の意見・要望を確認し法人全体の会議時に代表者に提案している。また、日々の業務等、スタッフの意見、提案も出来る場面も提供し運営に反映している。	イベント担当者による立案を行事担当を通して管理者が意見の交換をして、反映させている。職員同士普段から話し易い関係にあり、行事や対応について話合っている。人事考課を行い意見を知る機会としている。	イベント担当者が100歳の入居者の祝いを他の入居者、家族、職員と皆で祝う会を予定している。この提案が実現することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、努力を認め意欲向上に繋がるよう努めている。普段から話しやすい職場作りを設けコミュニケーションの取り易い職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では看護師を交えて医療面での研修、認知症の勉強会を行ったり、法人内、外の研修も参加できる機会を代表者とも連携し参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業の関係者とネットワークを築くと共に情報交換を行いサービスの質の向上が図れる機会を作り法人全体で研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があれば事前に面談させて頂いている。また、入居となる段階で要望、希望を伺い本人が安心して暮らせる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のこれまでの経緯や苦労などを傾聴し、また要望や不安な事、疑問などに耳を傾け、ケアを活かせるようにしている。入居までに何度か面談を行い信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い現在の状況をや相談をゆっくり聞き、信頼関係を築きながら必要とするサービスの支援を見極め他の事業所への必要性があればサービスの利用も含め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切にしている。一緒に取り組めることがあれば共に行い利用者様同士が楽しめる場を提供し、お互いを尊重し一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には家族とゆっくり過ごせる時間を提供している。日頃の様子を近況報告し、情報の共有を図っている。月報告も行い、家族との信頼関係の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてこられた友人や近所の方、家族が、いつでも来苑出来る場を作り、関係が途絶える事がない環境作りに努めている。	家族との関係を大切にし、面会時には環境を整え寛いで過ごせる様支援している。2か月ごとに馴染みの理容師との再会がある。近隣の神社へ初詣に出掛けている。メロン祭り、もみじ祭りに出かけ出店を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して関われる場を職員が間を取り持ちながら孤独感を感じず安心して過ごせる環境作りに努め、安心、居心地の良く過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も御家族から相談があれば丁寧に対応したり、様子を伺わせてもらったり、良い関係作りが続いていくよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞いたり、常に利用者様の思いを聞くようにしている。また、御本人から確認出来ない場合は御家族からも情報を聞き御本人の思いや意向を把握するようにしている。	日常的に思いや希望を聴ける声掛けや、何気ない会話から思いを汲み上げている。家族からの情報、生活歴や趣味などを勘案して、思いや意向を捉えている。その人らしく、充実感を持ってもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入苑前のご本人の生活歴、趣味等の情報からこれまでの人生を大切に継続して生活が行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理を行いながら、その時の体調に合わせ、ご本人の持っている残存能力を生かし、行えることは一緒に行い、充実感を持ってもらえるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで介護計画の評価・見直しを行っている。より良く生活できるよう職員、家族から御意見、ご要望を伺い反映できるよう作成している。	モニタリングシートを用いて、月末に担当者が項目をチェックし、状態の把握をしている。ケアカンファレンスにて計画の進捗状況を確認している。状態の変化時や更新時に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別記録や日々のバイタルチェック表を記録し、職員間で情報の共有が出来るよういかしている。状態の変化等あれば次回の計画見直しの課題に反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急で受診が必要な時は御家族に連絡を行い、その時の御家族の状況に合わせて柔軟な支援に努めている。入院時には家族の代わりに最後まで付き添い、その時に生じるニーズに合わせて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度より地域の文化祭に利用者様が描いた絵や作品を出品するなど地域との共有を図っている。また、苑での行事には地域の方を招いたりし楽しみの共有を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院または、かかりつけ医の受診など適切な医療が受けられるように支援している。また、退院時には職員や看護師が同行し、今の状態を把握し退院後も安心できる体制を整えている。	内科かかりつけ医の受診や母体施設の整形外科医の週1回の往診があり、健康管理をしている。歯科受診を支援している。週3回、訪問看護師によるチェックにて異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の利用者様の健康状態を把握し状態の変化に応じた適切な支援が常に行えるよう努めている。また、訪問看護師にも報告、相談し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報提供と共に安心して過ごせるように職員が電話や面会等で情報交換し早期対応ができるよう努めている。また、退院時には情報提供書を頂き今後のケアがスムーズに安心して行えるよう主治医、看護師の指示の元取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関しての方針を説明している。御家族や医師、職員と話し合いを行い、最期まで、その人らしい暮らしを支える為、御家族や先生と連携を図りながらチームで支援して行くよう取り組み毎日の経過をより詳しく書くよう取り組んでいる。	入居契約時に重度化についての事業所の対応を話し合っている。インシュリン、胃瘻など医療処置が必要となれば医師の指示の下、施設入所を勧めている。終末期の対応と看取りについての理解を深め、終の棲家として取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に対応出来るように看護師を講師に内部研修を開催しレベルアップに繋げている。また、緊急時の対応マニュアルを作成し職員が、いつでも閲覧できるよう掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防火避難訓練を年2回実施している。また、何かあれば地域住民との協力も得られるよう体制を築いている。災害についてのマニュアルと避難方法を事務所に掲載し職員全員が把握出来るようにしている。	火災想定避難訓練を避難計画に基づいて実施している。水害の経験を踏まえ、運営推進会議にてその対策と処置を話し合い、実施している。災害時の避難マニュアルは作成している。災害時避難場所は確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者一人ひとりの個性を大切にし、その人らしい生き活きとした暮らしが出来るよう支援している。また一人ひとりの気持ちを尊重し、言葉かけや安心感を持ってもらえる対応を行っている。	表出される思いや気持ちを大切にし、誇りを損なわないよう対応している。特に排泄介助においては声掛けに注意して周りへの配慮をしている。無理しいすることなく、本人ペースが保てるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で訴えられる思いや気持ちの中から利用者様が話しやすい環境を作り要望、思いを表されたときは、本人の意見を尊重し、危険と感じた時は近くで寄り添い行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活リズムを大切に、スタッフ側の都合でなく利用者さん目線になり毎日の暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切りや耳掃除も行ない、二ヶ月に一度理容師さんに来てもらいカットやカラー等身だしなみに気をつけ、その人らしさが失われないよう快適な日常生活が過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められた物があるが、時折、利用者様に食べたい物を聞きながら外食したりと食事の楽しみを増やしている。また、体調や食事量も把握した上で見た目や盛り方にも工夫して提供している。	栄養士の献立で、バランスが取れたものとなっている。ご飯と汁物はホームで調理している。菜園で採れたスイカ、トマト、サツマイモなどはおやつや夕食の食材として使われている。回転すしなど外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の心身状態を観察・把握し十分な栄養・水分の確保に努め健康管理を行っている。また、利用者様の健康状態に合わせた味付けや好みに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、うがいを徹底し清潔保持に努めている。入れ歯の消毒なども随時行い清潔な口腔状態が保てるよう支援し、また、一人ひとりの能力に合わせたケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態に添って時間を決めて声掛けをトイレ誘導を行い、その人の能力に合わせた支援を行っている。トイレの失敗が出来るだけ軽減出来るようにも努めている。	排泄表を基にトイレでの排泄を試みている。立位不可の場合は二人介助にて支援している。緩下剤の内服、食材の調整、水分摂取に注意して体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や水分をしっかり促している、下剤の服用等便秘解消の為の工夫を行っている。また、毎日の排便チェック表を作成し個々の状態を把握し先生の指示の下、薬の調整を行い改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った入浴を行い、入浴時間にもゆとりを持ってゆっくり楽しんで入浴できるよう支援をしている。	入浴の意向を確認して誘導している。機械浴槽が用意され、浴室を跨いで入ることが難しい入居者も、浴槽で楽しめる様支援している。足浴をして冷え性のケアをしたり、柚子湯を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の状態に合わせ、居室で休息して頂いている。日中の生活状態や健康状態を配慮し、いつでも安心して睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の内容、用法を理解し先生の指示のもと支援している。また、新たな薬の服用時には症状を確認し体調の変化を見逃さないように努めている。異変があれば、その都度、先生に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分に合った活動ができる場を提供し楽しみながら生き活きと暮らせるよう支援している。また、ドライブや喫茶、散歩等、御本人の要望も聞き楽しみある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の2日旅行の機会を作り色々な場所に出向き景色や花等を見てもらい、季節を感じられる場所に行ったり外食を楽しんでいる。入苑者の希望に添い出来るだけ時間を作り出掛けられるようにしている。移動も、車を使用したり徒歩で行ったりと個々のニーズに合わせ支援している。	ドライブを兼ねて小旅行と称し、桜の花見、吉備高原、空港、バラ園に出掛けている。近隣には近水園や公民館、園庭などの名所があり、日常的に散歩に出かけ、祭り時には出向き、屋台を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お子使いは苑で管理しているが、買い物や旅行等ご本人の希望や必要があれば、その都度、職員の支援の下、利用者様が自分で支払う事が出来るよう対応し御家族も理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛ける事が出来ない方がほとんどであるが、家族から電話があると、お話が出来るように支援している。お手紙が届いた時には読めない方に代弁しお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールにはその季節の花鉢を置いたり壁には塗り絵を貼ったり四季を感じてもらえる空間を作っている。また、利用者様の居室の飾り付けや自分持ちの馴染みの家具の配置等は自分好みに自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	前庭にはいつでも出られ、日向ぼっこや喫煙など寛ぎの場となっている。玄関には入居者の絵や絵画を掲示して訪問者を温かく迎えてくれる。リビングにて職員、入居者同士が肩を並べ寄り添って、アクティビティーを楽しみ、和気あいあいと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはソファを置きテレビを見ながら気の合う仲間とゆったり団欒できるようになっている。また、1人になりたい時には別場所でゆっくり自分のペースで過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔を懐かしめるような家具や仏壇・家族の写真等で飾り付けをして、利用者さんが安心して心地よく生活して頂けるように努めている。また、毎朝、職員が掃除を行ない清潔を保つよう努めている。	表札を掲げ、部屋の確認ができる様努めている。カレンダーや時計を配置して見当識への支援をしている。家族写真、椅子、ダンス、テレビなどを配置して自分の部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る力を見極めトイレや居室に名前をや目印をつけ位置関係にも配慮し不安や混乱なく苑の生活に馴染めるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 B棟		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JiyosyoCd=3370105623-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が自然に囲まれ緑豊かな環境の中、近隣には小学校や公民館・近水園(庭園)が立地しています。当苑は、地域の文化祭に参加したり、畑で育てた野菜を収穫するなど地域や自然とのふれあいを大切にしながら、家庭的な環境の中で利用者様の残存能力を生かし出来ることは出来る限り自分でして頂けるよう自立支援に向けた取り組みに力を入れています。一人ひとり利用者様が、ご家族の意向に沿った生活の実現を目指し個別性のあるケアの実践に努め、その人らしいサービスが提供できるよう取り組んでいる。また、医療面では、母体施設が医療法人でもあり、先生と連携し、緊急時においても早期対応が出来る体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念のもと地域に開かれたグループホームであると共に、利用者様が孤立することなく地域社会の一員として生活できるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけている。また、地域の文化祭や催し物に参加し地域との交流を図っている。運営推進会議の場においても、地域住民の方と情報交換をし、気軽に交流できる方法などを話し合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩しお話を交したりすることで、その方の事を理解して下さり気軽に声もかけてくれている。また、運営推進会議のメンバーに地域代表1名、ご家族代表1名の参加がある為、参加者を通じて地域やご家族での認知症の理解を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催し利用者の状況、活動内容、取り組み、問題点等を報告し意見や助言を頂きながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの方に参加して頂き、取り組みなど報告しています。また、必要に応じて、その場で助言等をしてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に事業所の基本的考えを伝え、御家族に伝えている。また、年間研修計画に身体拘束についての研修が組まれ定期的な勉強会を行い、身体拘束の理解を深め身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての定期的に会議を行い職員間の情報共有や利用者様の観察を行い状態把握に努めている。また、虐待への理解を深め、虐待がないケアを心がけ虐待を見逃さない組織の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要性のある利用者様はいないが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち理解を深め、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全て丁寧に説明を行い、質問や疑問があれば、その都度、詳しく説明をし理解・納得の上、同意書を頂いている。また、改定があった場合は、その都度、文書を公布し、御家族に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に、御意見箱を設置し気軽に、ご家族から意見が聞けるようにしている。また、毎年、家族会を開催し苑の活動内容を報告すると共に、ご家族からの意見や要望を聞いている。報告書や新聞を発行し利用者様の日頃の様子を理解して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは管理者を交え職員間の意見・要望を確認し法人全体の会議時に代表者に提案している。また、日々の業務での気付きやケアについての意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課表を用いて勤務状況を把握し自己評価をしている。それにより職員の実績、努力を認め、意欲向上に繋がるよう努めている。また、各職員にあった役割分担を決める事で各自が向上心を持ち働ける環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では看護師を交えて医療面や緊急時の対応等を行ったりしている。法人内・外の研修に関しては1人1人の能力を把握し、参加できる機会を代表者と共に連携し参加出来るように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業の関係者とネットワークを築くと共に情報交換を行いサービスの質の向上が図れる機会を作り法人全体で研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があれば事前に面談させて頂き御本人主体のアセスメントを行っている。また、馴染みの関係が作れるよう何度かお会いしたり、体験入苑等も実地して利用者様の不安が少しでも取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のこれまでの経緯や苦勞などを傾聴し、また要望や不安な事、疑問などに耳を傾け、ケアを活かせるようにしている。入居までに何度か面談を行い話し合いを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い現在の状況をや相談をじっくり聞き、信頼関係を築きながら必要とするサービスの支援を見極め他の事業所への必要性があればサービスの利用も含め対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に取り組めることがあれば共に行い利用者様同士が同じ生活者としての目標を持ち、お互いを尊重し一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には家族とゆっくり過ごせる時間を提供している。必要があれば面会時には利用者様と一緒に会話に参加し近況状況を兼ねてコミュニケーションを図り一緒に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてこられた友人や近所の方が、いつでも来苑出来る場を作り関係が途絶える事がないよう、御家族と協力しながら支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して関われる場面を職員が間を取り持ちながら孤独感を感じず安心して過ごせ支えあえる関係が作れるよう職員は常に利用者様同士の関係の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も御家族から相談があれば丁寧に対応している。また、御家族とお会いした時は、様子を伺わせてもらったり良い関係作りが続けていけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞いたり、常に利用者様の思いを聞くようにしている。また、御本人から確認出来ない場合は御家族からも情報を聞き御本人の思いや意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入苑前のご本人の生活歴・生活リズム・性格等の情報を収集し、可能であれば、ご本人からも情報収集をして、今まで大切にされてきた暮らしが継続できるよう配慮をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理を行いながら、その時の体調に合わせ、ご本人の持っている残存能力を生かし日常生活が送れるよう支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで介護計画の課題・見直しを行っている。職員間で情報を共有し話し合い実践して入る中で、利用者様や御家族には、その都度、意見を求め、再度、職員間で話し合いケアプランに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別記録や日々のバイタルチェック表を使用し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。また、関わった対応については具体的内容を記録し実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急で受診が必要な時は御家族に連絡を行い、その時の御家族の状況に合わせて柔軟な支援に努めている。また、その時に生じるニーズに合わせ、職員を増員できるよう柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度より地域の文化祭に利用者様が描いた絵を出品するなど、地域とのふれあいを大切に楽しみある暮らしを支援している。また、地域の方々には苑の夏祭り等で気軽に来苑して頂き楽しみの共有を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院または、かかりつけ医の受診など、御家族の要望に応じて適切な医療が受けられるように支援している。また、退院時には職員や看護師が同行し、今の状態を把握し退院後も安心できる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の利用者様の状態を把握し状態の変化に応じた適切な支援が常に行えるよう申し送りを通じて状態報告を行い情報を共有している。また、訪問看護師にも報告、相談し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報提供と共に安心して過ごせるように職員が電話や面会等で情報交換を行っている。また、退院時には情報提供書を頂き今後のケアがスムーズに安心して行えるよう積極的な支援に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関しての方針を説明している。御家族や医師、職員と話し合いを行い、最後まで、その人らしい暮らしを支える為、御家族や先生と連携を図りながらチームで支援して行くように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に対応出来るように看護師を講師に内部研修を開催している。また、緊急時の対応マニュアルを作成し職員が、いつでも閲覧できるよう掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防火避難訓練を年2回実施している。また、運営推進会議の場において避難場所や避難方法を確認している。水害においてはマニュアルと避難方法を事務所に掲載し職員全員が把握出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者一人ひとりの個性を大切にし、その人らしい生き活きとした暮らしが出来るよう支援している。また一人ひとりの気持ちを尊重した言葉かけや対応を日々のケアの中で活かせるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で訴えられる思いや気持ちの中から利用者様が話しやすい環境を作る事で希望や意向、不満等を聞けるように努めている。また、。意思表示の困難な方に対しては表情や仕草から思いや希望をくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活リズムを大切にし、休みたい時間、食べたい物、着たい服など職員が寄り添い希望に沿った対応が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切りや耳掃除も行ない身だしなみに気をつけ、その人らしさが失われないよう快適な日常生活が過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められた物があるが、時折、利用者様に食べたい物を聞きながら外食したり、お弁当にしたりと食事の楽しみを増やしている。また、体調に合わせた食事形態を提供し楽しく安全に食事ができる支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の心身状態を観察・把握し十分な栄養・水分の確保に努め健康管理を行っている。また、利用者様の健康状態に合わせた味付けや好みに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、うがいを徹底し清潔保持に努めている。入れ歯の消毒なども随時行い清潔な口腔状態が保てるよう支援し、また、一人ひとりの能力に合わせたケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態に添って声掛けをトイレ誘導を行い、その人の能力に合わせた支援を行っている。トイレの失敗が出来るだけ軽減出来るようにも努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や食物繊維の物を使ったり、下剤の服用等便秘解消の為の工夫を行っている。また、毎日の排便チェック表を作成し個々の状態を把握し先生の指示の下、薬の調整を行い改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った入浴を行い、入浴時間にもゆとりを持って楽しんで入浴できるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の体調に合わせ、居室で休息して頂いている。日中の環境や就寝前の雰囲気などにも配慮し十分な睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の内容、用法を理解し先生の指示のもと支援している。また、新たな薬の服用時には症状を確認し体調の変化を見逃さないように努めている。異変があれば、その都度、先生に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分に合った活動ができる場を提供し楽しみながら生き生きと暮らせるよう支援している。また、ドライブや喫茶、買い物等、御本人の要望も聞き楽しみある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の2日旅行の機会を作り季節を感じられる場所に行ったり外食を楽しんでいる。入苑者の希望に添い出来るだけ時間を作り出掛けられるようにしている。移動も、車を使用したり徒歩で行ったりと個々のニーズに合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お子使いは苑で管理しているが、買い物や旅行等ご本人の希望や必要があれば、その都度、職員の支援の下、利用者様が自分で支払う事が出来るよう対応し御家族も理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛ける事が出来ない方がほとんどであるが、家族から電話があると、お話ができるように支援している。お手紙が届いた時には読めない方に代弁しお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節の花鉢を置いたり職員が何時も見守る中で安心して過ごせる空間を作っている。また、利用者様の居室の飾り付けや自分持ちの馴染みの家具の配置等は自分好みに自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはソファを置きテレビを見ながら気の合う仲間とゆったり団欒できるようになっている。また、1人になりたい時には別場所でゆっくり自分のペースで過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔を懐かしめるような家具や品物・写真等で飾り付けをして心地よく生活して頂けるように努めている。また、職員と利用者様との間で相談をしながら温かい雰囲気を出すような工夫を取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る力を見極めトイレや居室に名前をや目印をつけ位置関係にも配慮し不安や混乱なく苑の生活に馴染めるよう努めている。		